中国の高度人材呼び戻し政策

北京研究連絡センター

中津　純子

1. はじめに

20 世紀後半、日本が高度経済成長期（1955～73 年）を迎えていた頃、中国では文化大革命（1966～76 年）が起こり、学術活動が一時期停止状態に陥っていた。当時、思想改造・純潔化の名の下に多くの知識人や研究者が迫害され、暴徒化した大学生らは地方農村へ下放された。その後、1978 年の改革開放以降の急速な発展は周知のとおりであるが、文化大革命による人材育成の断絶は次世代に「国内の人材不足」という深刻な課題を残した。

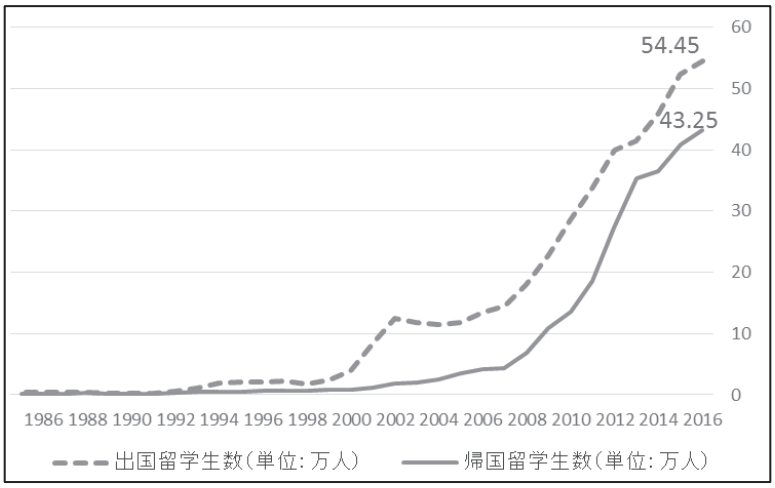
こういった背景から、中国政府は 1990 年代以降大規模な高度人材呼び戻し・招へい政策を打ち出してきた。本報告書では、中国の高度人材呼び戻し政策、中でも 2008 年から実施されている「千人計画」に注目し、中国の科学技術の現状について考察する。

2. 高度人材の呼び戻し

中国では海外で留学や就業を経験し、帰国して活躍する人材を「海帰（Hai Gui）」と呼ぶ。（大海から故郷の海岸へ再び戻ってくる「海亀（Hai Gui）」と発音をかけている。）文脈によっては、中国へ移住する華人もこの海帰に含まれることがある。

図 1 のとおり、中国では 90 年代から徐々に学生の海外留学が増加しているが、同時に海外で経験を積んだ人材を呼び戻すための、いわゆる「海亀政策」と呼ばれる政策が国家・地方レベルで実施され、学業を修めて帰国する学生の割合も年々上昇している[1]。

図 1：中国人留学生の出国者数と帰国者数



（出典：中国国家統計局[1]のデータを基に筆者作成）

[1] 人民日報によると、海外で学業を修めてから帰国する留学生の割合が 2016 年には 82.23%に達し、「新中国成立以来最大規模の海外留学帰国者ブーム」が到来していると報じられた。
「新中国成立以来最大規模の海外留学帰国者ブームに」人民網日本語版、2017 年 4 月 12 日
http://j.people.com.cn/n3/2017/0412/c94475-9201957.html（2018 年 1 月 23 日アクセス）

1994 年、中国科学院は全国に先駆けて「百人計画」という海亀政策を打ち出し、20 世紀末までに国内外の優秀な若手リーダー人材を 100 人招致することを目標として掲げた [2]。（本計画は、国務院直属の中国科学院による計画であるという意味で国家レベルのプロジェクトであるが、支援対象は中国科学院傘下の研究機関及び大学の研究者に限定されており、この点で全国の大学・研究機関・企業の高度人材を対象としている「千人計画」とは異なる。）

募集区分は国内の人材招致計画も含め複数あるが、中国人研究者を海外から呼び戻す目的で計画初期から実施された「海外傑出人材」（任期 3 年）の区分では、博士学位取得後、海外で 2 年以上の研究経験を持ち、助教又はそれに相当するポストに就いた者が対象となり、採用者には 200 万元（約 3,400 万円 [3]）の研究費と所属先からの給与・手当・福利厚生が与えられた。[2]

2014 年に百人計画実施 20 周年を記念して光明日報に掲載された中国科学院の白春礼院長の寄稿文では、1990 年代、歴史的要因により生じた「人材断層」が深刻で、中国科学院の研究者の平均年齢は 55 歳まで上昇し（当時の研究者の定年は男性 60 歳、女性 55 歳）、また同時に 80 年代の「出国潮」で多くの優秀な人材が海外に流出しており、彼らを呼び戻すことが継続的な発展への鍵であったと当時の切迫した状況が述べられた上で、2013 年末までに主に欧米等の科学技術先進国から合計 2,145 人の優秀な人材（採用時の平均年齢 37 歳）を百人計画により招致することができたと成果が報告されている [4]。

1990 年代には百人計画の他にも「国家傑出青年科学基金」（1994 年から国家自然科学基金委員会が実施）や「長江学者奨励計画」（1998 年から教育部、香港李嘉誠基金会が実施）等様々な海亀政策が開始された。

3. 千人計画

2000 年代中盤から年率 10%を超える経済成長を続けていた中国は、90 年代の海亀政策よりもさらに包括的で、海外からの人材招致に特化した全国レベルの計画を発表した。北京オリンピックが開催された 2008 年から中国共産党中央組織部が実施する「海外ハイレベル人材招致計画」（通称「千人計画」）である。本計画は、当初、5～10 年間で 2 千人のイノベーション人材を招致するという目標を掲げて開始された。（百人計画と同様に、本報告書を執筆している段階ではすでに目標の期間及び人数を超えているが、継続して新規募集をしている。）

---

[2] 本報告書を執筆している段階ではすでに目標の期間及び人数を超えているが、計画の見直しと拡大を重ね、現在も継続して実施している。2015 年からは新百人計画として「率先行動『百人計画』」を実施。「学術帥才（リーダー人材、世界トップレベルの研究者）」、「技術英才（中堅 R&D 人材）」、「青年俊才（特に優秀な若手人材）」の 3 つの募集区分を設けている。
中国科学院人事局「中国科学院率先行动“百人计划”全球招聘启事（中国科学院率先行動“百人計画”世界公募通知）」2017 年 5 月 17 日
http://www.cas.cn/tz/201705/t20170517_4601773.shtml（2018 年 2 月 4 日アクセス）

[3] 本報告書では 1 元＝17 円で中国元を日本円に換算する。

[4] 「白春礼：“百人计划”二十年回顾与思考（白春礼：“百人計画”二十年の回顧と考察）」光明日報、2014 年 11 月 20 日 16 版
http://epaper.gmw.cn/gmrb/html/2014-11/20/nw.D110000gmrb_20141120_1-16.htm?div=-1（2018 年 1 月 23 日アクセス）

千人計画は主に以下 4 つのカテゴリーの人材を募集している。

1. 創新人材 Innovative Talents
2. 創業人材 Entrepreneurs
3. 青年 Young Professionals（2011 年～）
4. 外専 Foreign Experts（2011 年～）

中国政府の 2015 年度報告によると、第 1～11 回千人計画の公募により合計 5,208 人の高度人材を呼び戻し・招へいしており、内訳は、創新人材 2,358 人（長期 2,036 人、短期 322 人）、創業人材 751 人、青年 1,778 人、外専 244 人、及びその他 77 人（文化芸術人材 16 人、新疆ウイグル・チベット自治区プログラム 49 人、特に優れた人材（ノーベル賞受賞者等）10 団体 12 人）となっている[5]。

次章以降では、高度人材の呼び戻し政策（華人等、一部招へいも有り）である創新人材、創業人材及び青年の概要を紹介する。（外国人専門家の招へい政策である外専については、本報告書では言及しない。）特に、創業人材と青年については、各回の公募の採用者情報がウェブで一般に公開されており、本報告書では詳細な分析結果を紹介したい。

3-1. 千人計画－創新人材 Innovative Talents－

創新人材のカテゴリーは優れた研究実績を持つ大学教授等のイノベーション人材を対象としており、中国でのフルタイム勤務が必須とされる長期プログラムに加え、第 6 回千人計画（2011 年）からは短期プログラムの募集も開始された。応募資格、待遇及び採用状況は以下のとおりである。

○主な応募資格（2017 年募集通知[3]より一部抜粋）

（長期）

・海外で博士学位を取得した者。
・55 歳以下の者。
・国際的に有名な企業の管理職・役員、又は海外の有名な高等教育機関・科学研究機構で教授と同等の職にある者。中国国内で常勤職に就いていない者。すでに国内で勤務している場合は、帰国（来華）後 1 年以内の者。
・採用後、国内で 3 年以上フルタイムで勤務する者。
・特に突出した人材又は国家が性急に必要とする人材については、年齢、学歴、専門分野及び

5 「打造最具影响力的国家引才品牌—2015 年国家“千人计划”亮点纷呈（最も影響力のある国家人材招致政策のブランド作り－2015 年国家“千人計画”のハイライト）」中国人材網、2016 年 1 月 7 日
http://rencai.people.com.cn/n1/2016/0107/c244853-28024321.html（2018 年 1 月 23 日アクセス）

職業の条件を緩和する。

（短期）

・採用時に中国国内で常勤職に就いていない、且つ創新人材（長期）のその他の資格を満たす者。

・採用後、国内で 3 年以上連続して、毎年 2 ヶ月以上勤務する者。

○待遇（参考文献[4] [5]より一部抜粋）

長期については、中央政府から全採用者に奨励金 100 万元（約 1,700 万円）が与えられる他、戸籍選択の自由、配偶者・子女への就業・就学支援、社会保険への加入、免税等の優遇サービスが提供される。短期については、奨励金 50 万元（約 850 万円）の他、ビザ・医療・保険等、必要な待遇が提供される。

○採用状況

創新人材については、残念ながら採用人数や採用者についてまとまった情報が公開されていない。（前述の中国政府の 2015 年度報告によると、2008～2015 年の 8 年間で創新人材（長期）が 2,036 人、2011～2015 年の 5 年間で創新人材（短期）が 322 人採用されていることから、毎年平均して長期 260 人、短期 60 人程度が採用されている計算となる。）

3-2. 千人計画－創業人材 Entrepreneurs－

創新人材と共に第 1 回千人計画から募集が始まったカテゴリーで、主に博士学位を持つ起業家を対象としている。応募資格、待遇及び採用状況は以下のとおりである。

○主な応募資格（2017 年募集通知[3]より一部抜粋）

・海外で博士学位を取得した者。

・55 歳以下の者。但し、特に優秀な者については年齢条件を緩和する。

・海外で起業経験がある者、又は国際的に有名な企業の管理職や役員を経験したことがあり、優れた経営管理能力を有する者。帰国後 6 年を超えない者。

・起業から 2 年以上、5 年以下の者。製品はコアテクノロジーを備えており、且つ試作中又は商品化の段階であること。企業の主要な創業人であり、筆頭株主である者（原則として 30%以上の株を保有していること。但し、巨大資本企業については持株比率の条件を適当に緩和する）。各企業 1 名のみ申請可能。

○待遇

創新人材（長期）に準ずる。

○採用状況

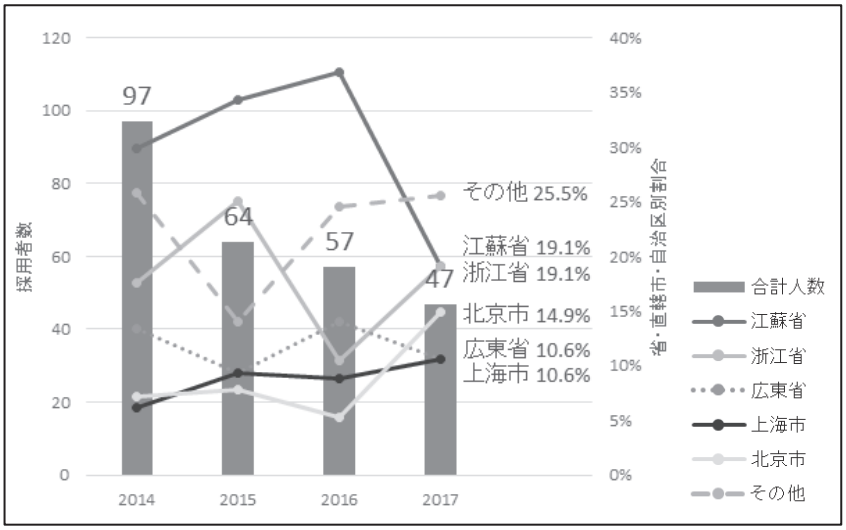
採用者情報を入手することができた直近 4 回（2014～17 年）の募集の採用予定者・採用者一覧をもとに、以下のとおりデータをまとめた。[6]

採用者数は図 2 棒グラフのとおり。中国政府の 2015 年度報告の人数と合算すると、第 1 回千人計画（創業人材）（2008 年）から第 13 回（2017 年）までで、合計 855 人の起業家等が採用されていることになる。

採用者数は減少傾向にあり、直近の第 13 回千人計画（創業人材）（2017 年）では、全国からの申請者 479 人のうち書類審査・面接を経て 47 人が採用された（採用率 9.8%）。

なお、2017 年 12 月には第 14 回千人計画（創業人材）の申請者 443 人のうち書類審査・面接に合格した採用予定者 41 人（採用率 9.3%）の一覧が公開されており、所定の公示期間内に異議申し立て等がなければ、2018 年に採用される予定である。[7]

図 2：千人計画（創業人材）採用者数と企業所在地の省・直轄市・自治区別割合



（出典：参考文献[6] を基に筆者作成）

企業所在地の行政区分の割合を見ると、第 13 回千人計画（創業人材）（2017 年）では江蘇省（主要な都市に南京市、蘇州市等がある）と浙江省（主要な都市に杭州市、寧波市等がある）の採用者の比率がそれぞれ全体の 19.1%を占め、次ぐ北京市、広東省、上海市の上位 5 行政区で全国の採用者の約 3/4 を受入れている。

その他の採用者の傾向は以下のとおり。

・採用前の前職勤務地は米国が圧倒的に多く、全体の約 6 割強を占める[6]。
・採用時の年齢は平均 45 歳。最年少の採用者は 30 歳、最年長は 60 歳（いずれも当時）。
・男女比は 14：1。

[6] 前職の勤務地が明示されていない場合は、本社の所在国・地域とした。所在地不明のデータは除いて割合を算出した。

3-3. 千人計画－青年 Young Professionals－

青年のカテゴリーは、2011 年から 2015 年まで毎年 400 人程度、合計 2,000 人の優秀な若手研究者を海外から呼び戻し・招へいすることを目標として設立された。応募資格、待遇及び採用状況は以下のとおりである。

○主な応募資格（2017 年募集通知[8]より一部抜粋）

・博士学位を取得している者。自然科学・工学分野を専門とする者。
・40 歳以下の者。
・申請時に連続 36 ヶ月間以上の海外での研究職務経験を持つ者。海外の有名大学、科学研究機構、又は著名な企業・研究開発機構で教育又は研究職に就いている者。すでに国内で勤務している場合は、その就業期間が 1 年を超えない者。
・採用後、国内で 3 年以上フルタイムで勤務する者。

○待遇[5]

中央政府から全採用者に（生活）補助一時金 50 万元（約 850 万円）と研究費 100～300 万元（約 1,700～5,100 万円）が与えられる他、各受入れ先が好条件の給与・福利厚生を提供している。

	北京航空航天大学の例[9]	武漢大学の例[10]
年俸	40～60 万元（約 680～1,020 万円）（税引き前）	40 万元以上。研究成果に応じ別途報奨有。特に優秀な候補者については、さらに高い水準の給与・研究経費を与える。
研究スタートアップ助成金	100～300 万元を申請することができる。	100～300 万元を提供。（政府からの研究費と 1：1 の割合で支給。）重要な研究計画があれば、別途経費を申請することができる。
職位	特別研究員（博士課程学生指導の資格有り。）	教授（常勤職、博士課程学生指導の資格有り。）

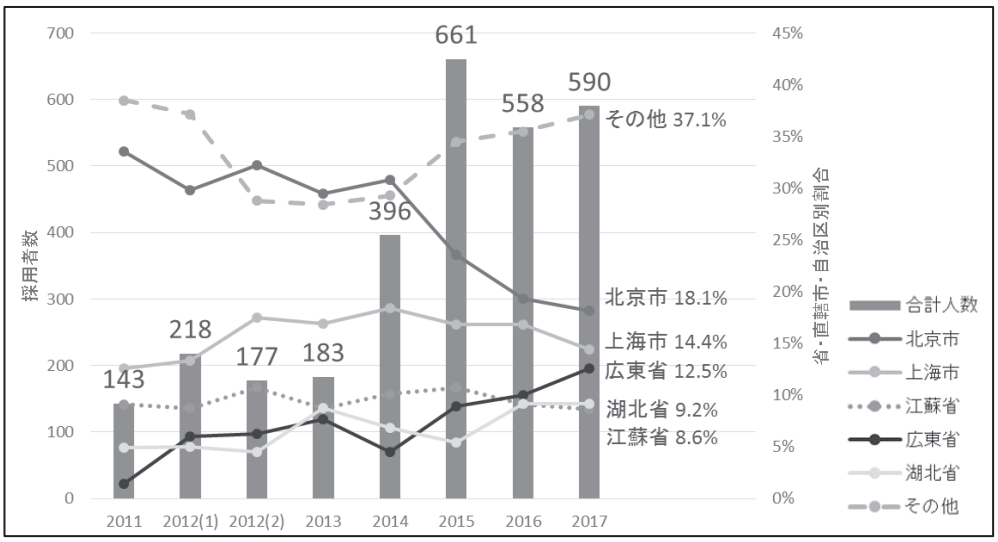
住宅	雇用期間中、教員宿舎（約 90 平米）を無料で提供。 教授に昇任した場合、大学が①年間 20 万元（約 340 万円）の住宅補助（最高 100 万元まで。借家の税金・賃料は全て自己負担。）又は②100 万元の住宅購入補助金（税引き前）を提供。	120～150 平米の住居又は 100 万元の住宅購入補助金を提供。
その他	博士課程学生と卓越百人ポスドクの配置を保証する。オフィスや実験室の配分等その他の事項は個別に交渉する。配偶者・子女への就業・就学支援有り。	毎年、博士課程学生 2 人と重点助成ポスドク 1～2 人の配置を保証する。良好な研究環境とオフィス、実験室を提供する。配偶者・子女への就業・就学支援有り。大学附属病院及び校内医院の医療を提供する。

○採用状況

過去合計 8 回（2011～17 年）の募集の採用予定者・採用者一覧をもとに、以下のとおりデータをまとめた。[11]

採用者数は図 3 棒グラフのとおり。第 1 回青年千人計画（2011 年）から第 13 回千人計画（青年）（2017 年）までの合計 8 回の公募で、合計 2,926 人の若手研究者が採用されている。

図 3：千人計画（青年）採用者数と受入れ先省・直轄市・自治区別割合



（出典：参考文献[11] を基に筆者作成）

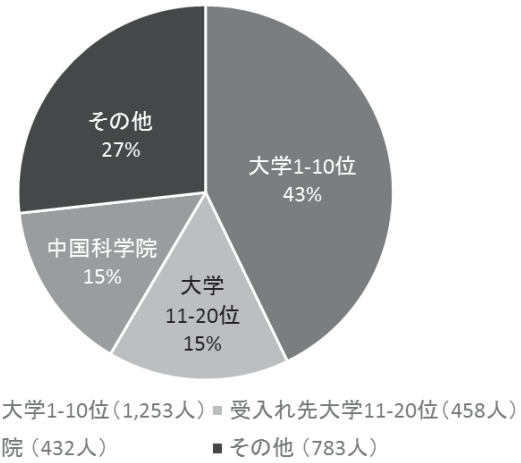
採用者数は増加傾向にあり、直近の第 13 回千人計画（青年）（2017 年）では、全国からの申請者 3,048 人のうち書類審査・面接を経て 590 人が採用された（採用率 19.4%）。

なお、2017 年 12 月には第 14 回千人計画（青年）の申請者 3,556 人のうち書類審査・面接に合格した採用予定者 630 人（採用率 17.7%）の一覧が公開されており、所定の公示期間内に異議申し立て等がなければ、2018 年に採用される予定である。[12]

採用者の受入れ先（推薦機関）の行政区分の割合を見ると、第 13 回千人計画（青年）（2017 年）では北京市の採用者の比率が全体の 18.1%を占め、次ぐ上海市、広東省、湖北省、江蘇省の上位 5 行政区で全国の採用者の 6 割以上を受入れている。近年は北京市の一極集中が緩和され、地方都市の割合が増加しており、中でも広東省（主要な都市に広州市、深圳市、中山市等がある）の伸びが顕著である。

受入れ先の分布は図 4 のとおり。受入れ人数上位 1～20 位の大学で全体の 6 割弱、中国科学院が約 15%（全国に 100 箇所余りある研究所の合計）、その他が約 27%となっている。表 5 には過去合計 8 回の募集で受入れ人数が最も多かった大学を 20 位まで順に挙げている。日本での認知度には差があるが、いずれも中国を代表する名門校である。

図 4：千人計画（青年）採用者の受入れ先



（出典：参考文献[11] を基に筆者作成）

表 5：千人計画（青年）の主な受入れ先大学

大学名	行政区分	2011-2017年 受入れ人数	（参考） QS 2018年 世界ランキング
清華大学	北京市	173	25位
北京大学	北京市	171	38位
浙江大学	浙江省	161	87位
中国科学技術大学	安徽省	160	97位
上海交通大学	上海市	132	62位
南京大学	江蘇省	109	114位
復旦大学	上海市	103	40位
華中科技大学	湖北省	94	471-480位
中山大学	広東省	87	319位
武漢大学	湖北省	63	282位
同済大学	上海市	59	316位
四川大学	四川省	53	551-600位
南方科技大学	広東省	52	-
電子科技大学	四川省	50	-
西安交通大学	陝西省	47	344位
厦門大学	福建省	47	431-440位
北京航空航天大学	北京市	41	551-600位
蘇州大学	江蘇省	39	-
天津大学	天津市	39	471-480位
南開大学	天津市	31	344位

（出典：参考文献[11] [13] を基に筆者作成）

また、採用者の帰国前（申請時）の所属国・地域及び博士学位を取得した国・地域は表 6 のとおりである。いずれも米国が最も多く、それぞれ全体の 65.0%、39.7%を占めている。

表 6：

①帰国前（申請時）の所属国・地域

北米		1,987（68.0%）
	米国	1,900（65.0%）
	カナダ	87（3.0%）
ヨーロッパ		527（18.0%）
	ドイツ	177（6.1%）
	英国	166（5.7%）
	フランス	39（1.3%）
	その他	145（5.0%）
アジア		303（10.4%）
	シンガポール	120（4.1%）
	日本	94（3.2%）
	台湾・香港・マカオ	79（2.7%）
	韓国	10（0.3%）
オセアニア		91（3.1%）
	オーストラリア	87（3.0%）
	ニュージーランド	4（0.1%）
中東		14（0.5%）
	イスラエル	9（0.3%）
	サウジアラビア	5（0.2%）
アフリカ		2（0.1%）
	南アフリカ共和国	2（0.1%）
（不明）		2
合計		2,926 人

②博士学位を取得した国・地域

アジア		836（47.0%）
	中国	674（37.9%）
	シンガポール	61（3.4%）
	台湾・香港	61（3.4%）
	日本	35（2.0%）
	その他	5（0.3%）
北米		740（41.6%）
	米国	706（39.7%）
	カナダ	34（1.9%）
ヨーロッパ		186（10.5%）
	英国	67（3.8%）
	ドイツ	44（2.5%）
	フランス	23（1.3%）
	その他	52（2.9%）
オセアニア		15（0.8%）
	オーストラリア	14（0.8%）
	ニュージーランド	1（0.1%）
（不明）		1,149
合計		2,926 人

（出典：参考文献[11] を基に筆者作成）

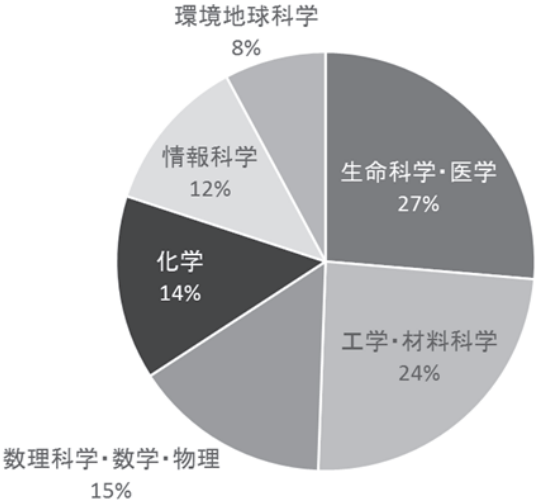
その他の採用者の傾向は以下のとおり。

・専門分野は「生命科学・医学（27%）」、「工学・材料科学（24%）」が最も多い（図 7 参照）。

・採用時の年齢は平均 34 歳。最年少の採用者は 25 歳（当時）[7]。

・男女比は 8：1。

図 7：千人計画（青年）採用者の専門分野



（出典：参考文献[11] を基に筆者作成）

[7] 海外の有名大学のポスドクや助教が中国の大学に准教授や教授のポストで戻ってくる、というケースはあくまで千人計画（青年）採用者の典型的なキャリアパスであるが、中には 20 代で教授に就任する者も現れ、時折ニュースに取り上げられている。「『90 後』のオックスフォード大の美人ポスドク、帰国して教授に就任」人民網日本語版、2016 年 1 月 6 日 http://j.people.com.cn/n3/2016/0106/c94475-8999767.html（2018 年 1 月 23 日アクセス）

4. 地方行政の取り組み

高度人材の招致には、中央政府のみならず地方行政の努力も欠かせない。2008 年以降、各地方政府は競うようにして様々な地方版「千人計画」を打ち出してきた。

北京市は千人計画による人材招致をさらに加速させるため、2009 年に「北京海外人才聚集プロジェクト」を開始した。2017 年までに 901 人を採用しており、そのうち 233 人が国家千人計画の採用者でもある。同プロジェクトの採用者には 100 万元（約 1,700 万円）の奨励金（一時金）、企業経営に関する支援（運営資金の借入、株式上場等への補助）、優遇された行政サービス（マルチビザ、北京市戸籍（配偶者・子女も含む）、医療、社会保険、教育等）等が市政府から提供される。[14]

また、浙江省も 2009 年から「浙江千人計画」を実施しており、2014 年までに 939 人を採用、そのうち 333 人が国家千人計画にも採用されている。大まかに分けて、長期の採用者には 100 万元の奨励金、短期（別称「カモメ計画」）の採用者には 50 万元（約 850 万円）が省から支給される（いずれも一時金）。さらに、2011 年からは外国籍採用者（華人等）の生活面での不便さ（住宅、銀行融資、出入国、子女の就学等に関するもの）を解消するため、「浙江省海外ハイレベル人材居住証」を発行する制度も開始され、行政サービスの優遇化が進められている。[15]

このように、千人計画は共産党中央組織部が中心となって、国務院、科学技術部、教育部、人力資源社会保障部、在外公館等、多岐にわたる中央政府部門を巻き込んだ政策であると同時に、各地方行政にも改革と競争を促し、積極的に参画させたという点で高く評価できる。今後もこれらの取り組みが継続され、中国全土で国際通用性の高いイノベーション環境が整うことが期待される。

5. 研究者へのインタビュー

2017 年 12 月から 2018 年 1 月にかけて、筆者は千人計画に採用された 5 人（創新人材（長期）1 人、創新人材（短期）1 人、青年 3 人）の中国人研究者を訪ね、彼らの海外での経験と帰国した理由・経緯等についてインタビューを行った。質問と回答は以下のとおりである。（回答はすべて匿名扱い [8]。）

[8] 今回は匿名インタビューのため各人の経歴を紹介することができないが、実際に千人計画にどのような人物が採用されているかということに関心がある場合は、千人計画網の「人物庫」（http://www.1000plan.org/wiki/）を参照されたい。

質問（1）なぜ中国に戻ってきたか。

回答：　教授のポストを求めて。千人計画に採用されたことで注目度が上がり、現在では多方面からオファーがある。／中国には安定した将来の約束はないが、大きなチャンスがある。当時はまだ若手だったので、挑戦してみようと思った。／以前から中国に戻る機会を探していた訳ではないが、現在の所属先から仕事のオファーがあり、千人計画に応募した。／現在所属している研究所の立ち上げ準備中に、知人から公募の情報を得たため。／①家族（両親）のため。我々一人っ子世代では両親の世話をするために帰国する人も多いと思う。②中国では基礎研究への投資が大きいため。諸外国では科学技術予算が減少し、テニュアのポジションも不足している。③千人計画に採用されたため。

質問（2）今日、海外を拠点に活動する中国人研究者が中国に戻ってくることを妨げている要因はあるか。

回答：　研究環境は悪くない。少なくとも清華大学と北京大学では全く問題ない。中国の生活環境が欧米の先進国と比べて悪いと感じる。／安定感がない。／完全に自由な研究環境がない。どの研究機関でも必ず組織目標に従わなければならない。成果主義のプレッシャーが強すぎる。今年成果が出なければ、翌年にはすぐにプロジェクトから外される。／あまりないと思うが、強いて言えば、環境汚染・不動産価格の高騰（家やマンションを買わなければならないという強いプレッシャー）・自由度の低い研究環境が挙げられる。／競争の過熱化。また、次に何が起こるか予測できないという不安感がある。

質問（3）中国又は諸外国の科学技術イノベーション政策（分野不問）について、個人的な意見や提案はあるか。

回答：　千人計画採用後、政府からの研究助成金が振込まれるまでに約 1 年かかった。着任後すぐにポスドクと博士課程学生を雇うことができず（現在は各 1 名、3 名を雇用中）、知人から借金をした。研究を始めるのに支障があったため、改善してほしい。／ヨーロッパと比較して、中国では研究資金を使うのが難しく、事務作業が非常に煩雑。中国政府も現状の課題を認識しており、対策が講じられるはずである。／日本にはもう少し自由に使える研究資金があるとよい。／中国には持続可能で、より安定した発展を期待する。現状では取り残される研究者が大勢出てくると思う。

（以下は「強くそう思う（5 点）」、「そう思う（4 点）」、「どちらとも言えない（3 点）」、「そう思わない（2 点）」、「全くそう思わない（1 点）」の 5 択で回答。）

質問（4）千人計画に採用されたことで得た報奨やその他の待遇は全体的に満足できるものであったか。

回答：　強くそう思う～そう思う（平均 4.4 点）

質問（5）今回帰国したことは自身にとって良い選択だったか。

回答：　そう思う（平均 4.0 点）

質問（6）千人計画がなかったとしても、（いずれは）中国に帰ってきたと思うか。

回答：　どちらとも言えない～そう思わない（平均 2.4 点）

学位取得後、帰国することなく海外で研究活動を行っていたため、千人計画なしでは中国でキャリアを築く足がかりがなかった。／中国には千人計画以外にも様々なチャンスがある。

質問（7）自由に選択できるとしたら、海外よりも中国国内で次のテニュア職に就きたいと思うか。

回答：　そう思う～どちらとも言えない（平均 3.2 点）

現在の所属先であれば、総じて可もなく不可もない。但し、マネージメントの手間や無駄等、研究と関係の無い部分で改善されるべき点がある。

質問（8）中国のリサーチファンド（政府及びその他企業等からのファンドも含む）は十分であるか。

回答：　そう思う～どちらとも言えない（平均 3.4 点）

旅費、消耗品等の支出は全く問題ない。しかし、大型の実験設備等を調達することができない。／国家総支出のうち、科学技術への投資の比率が依然として低いと感じる。／国家全体の科学技術予算は増えているが、必ずしも自身に直接関係する予算が増えている訳ではない。

質問（9）中国の科学技術イノベーションの未来は明るいと思うか。

回答：　そう思う（平均 4.0 点）

経済が良好なためそう思う。／中国の科学技術は「急速に発展している」が、先進国に「追いついている」という実感はない。諸外国も着実に前進している。／千人計画は中国のアカデミアに新しい風を吹き込み、人間関係を変えた。／潤沢な研究費があるので、もっと高い成果が出せるはず。

その他

・（筆者からの「千人計画（青年）の採用者の受入れ先が年々多様化しており、従来の名門校以外の大学も優秀な人材の招致に努めているように見受けられる。若手研究者はどういった受入れ先を選ぶべきか。」という質問に対し、）清華大学と北京大学では、新採用の若手研究者は千人計画に採用されているか、同等の能力を有していることが当然の要求となっている。他所の方が給与や職位等の待遇は良いかもしれないが、研究環境の面では全国から最も優秀な学生が集まる清華、北大には及ばない。

・（筆者からの「毎年、膨大な件数の申請を審査するのは大変だと思うが、審査にはどれほど時間がかかったか。」という質問に対し、）青年の場合、申請から結果通知まで半年程度。書類審査

で研究業績を見れば、大方採用者は決まると思う。

・（筆者からの「千人計画（青年）に採用されたことで、現所属先からのオファーは上がったか。」という質問に対し、）千人計画に採用されても、所属先から提示される給与・待遇は変わらなかった。但し、現所属先でのテニュア昇格審査の際に考慮される（有利になる）と聞いている。

6. おわりに

本報告書で紹介した高度人材の呼び戻し政策について、日本ではほとんど注目されていないが、中国にとっての人材獲得＝諸外国にとっての頭脳流出であるということを忘れてはならない。

すでに中国政府は、百人、千人に続き、「万人計画」（正式名称「国家ハイレベル人材特別支援計画」）を 2012 年から実施している。但し、万人計画は中国国内の人材を支援する政策であり、もう海亀政策ではない。文革以降、長らく中国科学技術界の喫緊の課題であった国内の人材不足問題は解消され、今後は千人計画と万人計画の両輪で、より攻めの姿勢の人材招致が展開されていくだろう。

一方で、当然中には頭脳の流入を上回る流出への懸念や、呼び戻し・招へいされた人材の質を問う声もある。本報告書で現状の課題等を含めた深い分析ができなかったことは残念であるが、世界の頭脳循環の中でのこれらの政策の影響力に今後も注目していきたい。

謝辞

本報告書の作成にあたり、インタビューにご協力頂いた皆様、ご助言を頂きました在中国日本国大使館、科学技術振興機構（JST）北京事務所、理化学研究所北京事務所、（元）中国政府関係者の皆様、廣田センター長をはじめとする JSPS 北京研究連絡センターの皆様に深く感謝申し上げます。

また、本研修期間中、東京で科学技術振興機構中国総合研究交流センター（CRCC）の研究会に参加させて頂いたほか、同センターが運営されるウェブサイト「Science Portal China」やメールマガジンからも中国をより良く理解するために役立つ情報を多く得ることができました。このようなプラットフォームのご提供に感謝するとともに、今後は自らも本研修で得た知識や経験を発信していきたいと思います。

最後に、2 年間にわたり貴重な研修の機会を与えてくださった広島大学の皆様、日本学術振興会の皆様、故郷から離れた東京・北京での筆者の生活を支え、充実したものにしてくださった全ての方々へ、この場をお借りして心からの御礼を申し上げます。ありがとうございました。

参考文献

[1] 中華人民共和国国家統計局　http://www.stats.gov.cn/（2018 年 1 月 23 日アクセス）

[2] 科学技術振興機構「百人計画」Science Portal China

http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_2/2_2/2_2_1.html（2018 年 2 月 3 日アクセス）

[3] 中華人民共和国科学技術部「科技部办公厅关于做好 2017 年国家“千人计划”相关平台项目申报推荐工作的通知」2017 年 6 月 29 日国科办政〔2017〕54 号

http://www.most.gov.cn/mostinfo/xinxifenlei/fgzc/gfxwj/gfxwj2017/201706/t20170630_133857.htm

（2018 年 1 月 25 日アクセス）

[4] 科学技術振興機構「千人計画」Science Portal China

http://www.spc.jst.go.jp/policy/talent_policy/callingback/callingback_05.html（2018 年 2 月 3 日アクセス）

[5] 千人計画網　http://www.1000plan.org/en/（2018 年 2 月 3 日アクセス）

[6] 公式発表は「千人計画網（http://www.1000plan.org/）」等の政府機関ウェブサイトに掲示されるが、記事がすでに削除されており、元データが入手できなかったため科学網等を参照した。

「第十批“千人计划”创业人才公示」科学網、2013 年 10 月 28 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2013/10/284395.shtm（2018 年 1 月 25 日アクセス）

「第十批千人计划创业人才、青年人才名单公布」科学網、 2014 年 3 月 14 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2014/3/289988.shtm（同上）

「第十一批“千人计划”创业人才名单公示」科学網、2015 年 2 月 11 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2015/2/313416.shtm（同上）

「第十一批“千人计划”入选资格名单公布」留学人材網、2015 年 7 月 10 日

http://www.liuxuehr.com/zhengcedongtai/qrjh/2015/0710/20381.html（同上）

「第十二批国家“千人计划”名单公示」科学網、2015 年 12 月 31 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2015/12/335201.shtm（同上）

济南市科学技術局「关于公布第十二批国家“千人计划”青年人才、 创业人才入选人员名单的公告」2016 年 3 月 15 日

http://www.jnsti.gov.cn/jnsti/science/view-tzgg-709550951961395200.html（同上）

「第十三批国家“千人计划”创业人才项目拟入选人员公示」科学網、2016 年 12 月 29 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2016/12/364635.shtm（同上）

「关于公布第 13 批国家“千人计划”青年项目、 创业人才项目入选人员名单的公告」科学網、2017 年 5 月 11 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2017/5/376036.shtm（同上）

[7] 「第十四批国家“千人计划”创业人才项目拟入选人员公示」科学網、2017 年 12 月 4 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2017/12/396091.shtm（2018 年 1 月 25 日アクセス）

[8] 「2017 年“千人计划”青年项目将开始申报」科学網、2017 年 6 月 20 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2017/6/379948.shtm（2018 年 1 月 22 日アクセス）

[9] 「北京航空航天大学诚邀海外优秀人才申报国家“青年千人计划”」千人計画網、2017 年 4 月 21 日

http://www.1000plan.org/zhaopin/detail?id=768（2018 年 1 月 23 日アクセス）

[10] 「武汉大学诚邀海外优秀人才申报国家“青年千人计划”」千人計画網、2017 年 5 月 16 日

http://www.1000plan.org/zhaopin/detail?id=510（2018 年 1 月 23 日アクセス）

[11] 公式発表は「千人計画網（http://www.1000plan.org/）」等の政府機関ウェブサイトに掲示されるが、多くの記事がすでに

削除されており、元データが入手できない場合は科学網等を参照した。

「第一批“青年千人计划”公示人选名单」南京橋網、2012 年 7 月 22 日

http://www.njqb.gov.cn/qjfc/qjry2/gjqr/201207/t20120722_265573.html（2018 年 1 月 11 日アクセス）

「关于公布第一批“青年千人计划”引进人才名单的公告」千人計画網、2011 年 11 月 11 日

http://www.1000plan.org/qrjh/article/18053（同上）

「关于公示第二批“青年千人计划”人选的公告」千人計画網、2012 年 1 月 4 日

http://www.1000plan.org/qrjh/article/18460（同上）

「关于公布第二批“青年千人计划”引进人才名单的公告」千人計画網、2012 年 2 月 20 日

http://www.1000plan.org/qrjh/article/18911（同上）

「关于公示第三批“青年千人计划”人选的公告」千人計画網、2012 年 6 月 26 日

http://www.1000plan.org/qrjh/article/20522（同上）

「关于公布第三批“青年千人计划” 引进人才名单的公告」千人計画網、2012 年 9 月 7 日

http://www.1000plan.org/qrjh/article/22483（同上）

「关于公布第四批“青年千人计划”引进人才名单的公告」千人計画網、2013 年 3 月 6 日

http://www.1000plan.org/qrjh/article/26268（同上）

「关于公示第五批“青年千人计划”人选的公告」新浪博客、2013 年 11 月 7 日

http://blog.sina.com.cn/s/blog_711c5e990101e68i.html（同上）

http://blog.sina.com.cn/s/blog_711c5e990101e68h.html（同上）

「第十批千人计划创业人才、青年人才名单公布」科学網、2014 年 3 月 14 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2014/3/289988.shtm（同上）

「第十一批“千人计划”青年人才名单公示」科学網、2015 年 2 月 11 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2015/2/313417.shtm（同上）

「关于公布第十一批“千人计划”青年人才、 创业人才入选资格名单的公告」厦門留学人材網、2015 年 5 月 11 日

http://www.xmlx.gov.cn/xmdt/201505/t20150511_1090898.htm（同上）

「第十二批国家“千人计划”名单公示」中国教育和科研計算机網、2015 年 12 月 31 日

http://www.edu.cn/rd/gai_kuang/xin_wen_gong_gao/201512/t20151231_1353444.shtml（同上）

「关于公布第十二批国家“千人计划”青年人才入选人员名单的公告」中国教育和科研計算机網、2016 年 3 月 15 日

http://www.edu.cn/jiao_shi_pin_dao/jiao_yu_ren_cai_zi_xun/201603/t20160315_1376064.shtml（同上）

「第十三批国家千人计划青年项目拟入选人员公示」科学網、2016 年 12 月 29 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2016/12/364636.shtm（同上）

「关于公布第 13 批国家“千人计划”青年项目、 创业人才项目入选人员名单的公告」千人計画網、2017 年 5 月 11 日

http://www.1000plan.org/qrjh/article/69239（同上）

[12] 「第十四批国家“千人计划”青年项目拟入选人员公示」科学網、2017 年 12 月 4 日

http://news.sciencenet.cn/htmlnews/2017/12/396090.shtm（2018 年 1 月 14 日アクセス）

[13] QS World University Rankings 2018

https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2018（2018 年 2 月 2 日アクセス）

[14] 「北京“海聚工程”已吸引“千人计划”入选者 233 人」新華網、2017 年 6 年 17 日

http://www.xinhuanet.com/2017-06/17/c_1121161726.htm（2018 年 2 月 5 日アクセス）

「北京海外人才聚集工程」中国教育和科研計算机網、2013 年 9 月 9 日
http://www.edu.cn/gongchengdongtai_10757/20100907/t20100907_519252.shtml（同上）
[15] 「"千人计划"我省引进和培养 556 人 浙江靠啥吸引"最强大脑"」浙江在線、2016 年 6 月 28 日
http://zjnews.zjol.com.cn/zjnews/zjxw/201606/t20160628_1660500.shtml（2018 年 2 月 5 日アクセス）
「浙江要以才引才招贤纳士 481 位海归已获“红卡”」 浙江在線、2014 年 9 月 3 日
http://zjnews.zjol.com.cn/system/2014/09/03/020237722.shtml（同上）